



Sun StorEdge™ T3 アレイ ご使用にあたって

バージョン 1.17b コントローラファームウェア

サン・マイクロシステムズ株式会社
東京都世田谷区用賀 4丁目 10番 1号
SBS タワー 〒158-8633

Part No. 806-5896-12
Revision A, 2001 年 10 月

Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc., 901 San Antonio Road, Palo Alto, CA 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, SunSolve, Sun StorEdge は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サン・のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Java およびその他の Java を含む商標は、米国 Sun Microsystems 社の商標であり、同社の Java ブランドの技術を使用した製品を指します。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

Netscape、Navigator は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。Netscape Communicator については、以下をご覧ください。Copyright 1995 Netscape Communications Corporation. All rights reserved.

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典：	Sun StorEdge T3 Array Release Notes Version 1.17b Controller Firmware Part No: 806-1497-14 Revision A
-----	---



Sun StorEdge T3 アレイ ご使用にあたって

はじめに

このマニュアルでは、Sun StorEdge™ T3 ディスクトレイの製品マニュアルに記載されていない最新の情報を提供します。

このマニュアルでは、ディスクトレイの設置や操作にかかわる問題や条件について説明します。このマニュアルの情報は、『Sun StorEdge T3 ディスクトレイ設置・操作・保守マニュアル』および『Sun StorEdge T3 ディスクトレイ管理マニュアル』の情報を補完します。

このマニュアルのほかに、Sun StorEdge Component Manager ソフトウェアや VERITAS Volume Manager など、Sun StorEdge T3 ディスクトレイに関連するソフトウェア製品に付属しているマニュアルや README ファイルも参照してください。

このマニュアルは次の項目で構成されます。

- 2 ページの「必要なパッチ」
- 3 ページの「必要なファームウェア」
- 4 ページの「解決された問題」
- 4 ページの「ファームウェアのアップデートおよび修正」
- 7 ページの「診断に関する問題」
- 7 ページの「Sun Cluster に関する問題」
- 8 ページの「VERITAS に関する問題」
- 10 ページの「保守に関する問題」
- 11 ページの「システムレベルに関する問題」
- 16 ページの「EPROM に関する問題」

- 17 ページの「コマンド行のエラーメッセージ」

必要なパッチ

Sun StorEdge T3 ディスクトレイを設置する前に、次の表に記載されている必要なパッチをすべてインストールしてください。これらのパッチは、次の SunSolve™ Web サイトで入手できます。

<http://sunsolve.sun.com>

パッチを入手するには、次の手順に従います。

1. SunSolve Online の目次で、「Patches」をクリックします。
2. 「Patches」の目次で、「Storage Products」をクリックします。
3. ファームウェアのアップグレード手順について、この Web ページにある README ファイルを参照します。

注 – 次に示すパッチのほかにも、Component Manager または VERITAS Volume Manager などのソフトウェア製品に関連するパッチが必要な場合があります。必要なパッチについては、SunSolve Web サイトとこれらの製品のマニュアルを参照してください。

表 1 必要なパッチ

システム	Solaris™ 2.6 オペレーティング環境	Solaris 7 オペレーティング環境	Solaris 8 オペレーティング環境
すべて	105356-18 以降 (ssd ドライバ)	107458-13 以降 (ssd ドライバ)	109524-05 以降 (ssd ドライバ)
	106226-01 以降 (format パッチ)	107473-07 以降 (luxadm パッチ)	
	105181-26 以降 (カーネル更新パッチ)	107834-03 以降 (DKIO 拡張パッチ)	
		106541-16 以降 (カーネル更新パッチ)	

表 1 必要なパッチ (続き)

システム	Solaris™ 2.6 オペレーティング環境	Solaris 7 オペレーティング環境	Solaris 8 オペレーティング環境
Sun StorEdge T3 ディスクトレイ	109115-09 ファームウェア パッチ	109115-09 ファームウェア パッチ	109115-09 ファームウェア パッチ
VERITAS 3.0.4	110261-04	110262-03	110263-03
VERITAS 3.1	110253-04	110254-04	110255-04
PCI (ifp) のみ	107280-08 以降 (ifp/PCI ドライバ) (PCI システムのみ)	107292-07 以降 (ifp/PCI ドライバ) (PCI システムのみ)	109189-02 以降 (ifp/PCI ドライバ) (PCI システムのみ)
	109399-03 以降 (PCI ホストアダプタ ファームウェア Fcode)	109399-03 以降 (PCI ホストアダプタ ファームウェア Fcode)	109399-03 以降 (PCI ホストアダプタ ファームウェア Fcode)
SBus/sf-socal のみ	105375-26 以降 (sf/socal ドライバ) (SBus システムのみ)	107469-08 以降 (sf/socal ドライバ) (SBus システムのみ)	109460-05 以降 (sf/socal ドライバ) (SBus システムのみ)
	109400-03 以降 (SBus ホストアダプタ ファームウェア Fcode)	109400-03 以降 (SBus ホストアダプタ ファームウェア Fcode)	109400-03 以降 (SBus ホストアダプタ ファームウェア Fcode)
Sun StorEdge ネットワーク 基本ソフトウェア			108984-08 108982-09 108983-08

必要なファームウェア

コントローラの最新のファームウェアレベルは、SunSolve Web サイトで確認できます。『Sun StorEdge T3 ディスクトレイ管理マニュアル』で説明しているように、`ver` コマンドを使用してディスクトレイのコントローラのファームウェアレベルを調べることもできます。

以前のバージョンのコントローラファームウェアでディスクトレイを構成している場合は、コントローラファームウェアをアップグレードした上で、『Sun StorEdge T3 ディスクトレイ設置・操作・保守マニュアル』で説明しているように、ほかのディスクトレイのファームウェアとともにディスクトレイの `/web` ディレクトリにある `*.htm` ファイルもアップグレードする必要があります。

注 - 現在インストールされているファームウェアレベルの確認方法については、ファームウェアのアップグレードパッチに付属する README ファイルを参照してください。

最新の *.htm ファイルとその他のすべてのディストレーファームウェアは、次の SunSolve Web サイトで入手できます。

<http://sunsolve.sun.com>

購入先を通じて最新バージョンのファームウェアを入手することもできます。

解決された問題

以前の『Sun StorEdge T3 ディストレーご使用にあたって』 (Part No. 806-5896-11) に記載されている次の問題は、解決されました。

表 2 解決された問題

番号	説明
4374280	RAID 0 ボリュームのホストベースのミラー化
4283199	大きな番号のディスクドライブを使用してボリュームを作成すると、より小さな番号のディスクドライブを使用してボリュームを作成できない

ファームウェアのアップデートおよび修正

次の節では、バージョン 1.17b ファームウェアリリースでの変更について説明します。

注 - 1.17b ファームウェアアップデートは、Sun™ Cluster 3.0 ソフトウェアが動作しているパートナーグループ (エンタープライズ) 構成に接続されたディスクトレイをサポートします。ディスクトレイのファームウェアをバージョン 1.17a にアップグレードしたばかりで、Sun Cluster ソフトウェアが動作しているエンタープライズ構成でディスクトレイを使用する予定がない場合は、バージョン 1.17b ファームウェアにアップグレードする必要はありません。

Sun Cluster のサポート

バージョン 1.17b ファームウェアリリースでは、次の構成をサポートします。

- Sun Cluster 2.2 および Sun Cluster 3.0 の単一ディスクトレイ (ワークグループ) 構成
- Sun Cluster 3.0 のパートナーグループ (エンタープライズ) 構成 (その他の関連情報については、5 ページの「明示的な LUN のフェイルオーバー」を参照してください)。

このファームウェアは、以前、SunSolve Web サイトからパッチ 110760 として入手できた Sun Cluster サポート用の 1.16a ファームウェアリリースに代わるものです。

サポートされている Sun StorEdge T3 ディスクトレイの Sun Cluster 構成については、Sun Cluster のマニュアルを参照してください。

明示的な LUN のフェイルオーバー

明示的な LUN のフェイルオーバー (ELF) は、将来のホストアプリケーションが意図しないディスクトレイ LUN のフェイルオーバーを取り除くことができるようにする機能です。この機能を使用可能にするために、`sys mp_support` コマンドに 2 つの新しいオプションの設定 (`mpxio` および `std`) が追加されました。

- `mpxio` 設定は、Sun Cluster 3.0 構成のディスクトレイパートナーグループで使用します。
- `std` 設定は、1.17 ファームウェアに含まれていて、将来の製品機能を利用します。

次に、使用可能な `sys mp_support` コマンドのすべてのオプションの例を示します。

```
sys mp_support <none | rw | mpzio | std>
```

クラスタ構成の Sun StorEdge T3 ディスクトレイパートナーグループで `mpzio` ユーティリティーを使用する方法については、Sun Cluster 3.0 のマニュアルを参照してください。

永続的なグループ予約

永続的なグループ予約 (PGR) は、1.17b ファームウェアリリースに組み込まれた新しい機能で、Sun StorEdge T3 ディスクトレイ上の SCSI-3 の永続予約コマンドを実現します。この機能は、業界基準である SCSI-3 永続予約コマンドをサポートするすべてのソフトウェアで使用できます。

バッテリーリフレッシュ処理

1.17b ファームウェアリリースでは、28 日周期のバッテリーリフレッシュ処理をサポートしています。これにより、以前のファームウェアリリースでは 14 日ごとだった、バッテリーリフレッシュの周期が延長されます。

診断に関する問題



注意 – Sun StorEdge T3 ディスクトレイの ofdg ユーティリティーは、保守の目的にだけ使用してください。この機能を使用すると、データが使用不可になります。

ディスクトレイのファームウェアは、コマンド行インタフェースと、Sun StorEdge Component Manager 2.2 の診断タブに対応するグラフィカルユーザーインタフェースを提供します。ofdg ユーティリティーは、オフラインの診断テストに使用されます。現時点では、このツールの使用は認定を受けた保守プロバイダに限定する必要があります。ofdg ユーティリティーのテスト機能には制限があるため、システムがオフラインのときにだけ使用して問題の発生を防止する必要があります。

Sun Cluster に関する問題

4348012 : Sun Cluster 2.2 構成では、DMP を使用不可にする必要がある

Sun StorEdge T3 ディスクトレイが Sun Cluster 2.2 構成の一部で、クラスタホストにインストールされた VERITAS Dynamic Multipathing (DMP) ソフトウェアを使用している場合は、SCSI 予約で競合が発生する可能性があります。競合を回避するために、クラスタホストで DMP ソフトウェアを使用不可にしてください。

4406863 : Sun Cluster 2.2 では、ディスクトレイに対して recon_rate=high を設定できない

Sun StorEdge T3 ディスクトレイが、Sun Cluster 2.2 環境で構成されている場合は、recon_rate を low または med に設定してください。ディスクトレイの sys recon_rate コマンドを使用して、この設定を変更できます。Sun Cluster 2.2 構成で動作しているディスクトレイに対して recon_rate=high を設定すると、クラスタソフトウェアが中断します。

VERITAS に関する問題

4264118 : DMP フェイルバックが自動的に使用可能にならない (VERITAS Volume Manager 3.0.4 のみ)

VERITAS ソフトウェアのインストール後、VERITAS の Dynamic Multipathing (DMP) 自動フェイルバック処理が正常に行われるようにするには、Sun StorEdge T3 ディスクトレイに接続しているホストシステムでスーパーユーザーになって次のコマンドを入力してください。

```
# vxdmpadm start restore interval=60 policy=check_all
```

注 - システムの再起動後に、必ずこのコマンドを実行してください。

4282806 : vxinstall が、構成の最初のディスクトレイコントローラしか表示しない

vxinstall の実行中、画面に Sun StorEdge T3 ディスクトレイのパートナーグループ内の最初に接続されているホストバスアダプタだけが表示されます。これは、パートナーグループへのほかのパスが検出された場合でも、vxinstall がディスク

レーパートナーグループへの最初のパスしか表示しないためです。ディストレーの構成によっては、ボリュームが2つ目のコントローラデータパス経由で存在することもあるため、誤解を生じるかもしれません。

この問題への対処は必要ありません。vxinstall を最後まで実行してください。VERITAS のインストール後にホストシステムが再起動すると、Volume Manager ソフトウェアによってディストレーへのすべてのパスが正しく認識されます。

4313336 : Sun StorEdge T3 ディストレーと StorEdge A3500 構成における DMP サポート

相互接続されたディストレーコントローラ装置間の完全な冗長性を実現するには、DMP のサポートが必要です。StorEdge A3500 記憶装置が接続され、DMP が動作しているホストに冗長な Sun StorEdge T3 ディストレーを接続する場合、両方のタイプの記憶装置を正しく共存させるには、代替パス (AP) ファイルを削除する必要があります。

次の手順を実行するには、root でログインする必要があります。

1. データホストから次のように入力します。

```
# ls -l /kernel/drv/ap
```

2. /kernel/drv/ap ファイルのサイズが 0 の場合、次のように入力して、/kernel/drv/ap ファイルを削除します。

```
# rm /kernel/drv/ap
```

3. システムを再起動します。

```
# reboot
```

/kernel/drv/ap ファイルのサイズが 0 でない場合は、AP がインストールされています。AP と DMP は共存できないため、DMP は使用可能にできません。この場合、pkgrm (1m) を使用して AP 製品を完全に削除することをお勧めします。詳細は、AP 製品のマニュアルを参照してください。

4253044 : ボリューム使用率が更新されない

Volume Manager Storage Administrator (VMSA) 製品で、ボリューム使用率情報が正しく更新されないことがあります。この問題が発生した場合は、VMSA アプリケーションを再起動して、ボリューム使用率の統計情報を更新してください。

保守に関する問題

FRU を取り外して 30 分以上経過すると、パートナーグループが停止する

現場交換可能ユニット (FRU) を 30 分以上取り外したままにしておくと、熱に起因する問題が発生することがあります。この問題を防ぐため、構成要素が 30 分以上取り外されていた場合、Sun StorEdge T3 ディスクトレイは、所定の処理で停止するように設計されています。このため、FRU を交換するときは、交換用部品をすぐに取り付けられるようにあらかじめ準備しておく必要があります。FRU は、取り外してから 30 分以内に交換してください。30 分以内に交換しないと、Sun StorEdge T3 ディスクトレイおよびパートナーグループ内の接続されているすべてのディスクトレイが自動的に停止し、電源が切断されます。

インターコネクトカードの syslog 通知

バージョン 1.17b ファームウェアでは、ディスクトレイはインターコネクトカードに関する通知メッセージを、6 時間ごとに syslog ファイルに記録します。次に、この通知の例を示します。

```
SCHD[1]: N: ulctr: ull1 temperature 26.0 Celsius
```

この通知はパートナーグループの各インターコネクトカードに表示されるため、6 時間ごとに最大 4 つの通知メッセージが表示されます。これは状態メッセージで、機能には影響しません。

4374724 : RAID 1 ストライプの隣接しない複数のディスクの障害

Sun StorEdge T3 ディスクトレイの RAID 1 ボリューム内の隣接しない複数のディスクに障害が発生したとき、ボリュームがマウント解除されないことがあります。RAID 1 内の単一ドライブの障害は適切に処理されますが、複数のドライブ障害の場合は、RAID 1 のボリュームがマウントされたままになり、引き続きホストからアクセスできる状態になります。

4348664 : fru list コマンドによって、新しいドライブファームウェアのバージョンが自動的に表示されないことがある

Sun StorEdge T3 ディスクトレイの内蔵ドライブのファームウェアをアップグレードしたあと、そのドライブに対して `disk version und1-9` 処理を実行してください。このディスクトレイコマンドによって、内部データベース内のドライブのファームウェアのバージョン情報が正しく更新されます。ドライブのファームウェアのアップグレード後にこの処理を実行しないと、`fru list` コマンドを使用したときにドライブのファームウェアについて無効なバージョン情報が表示されることがあります。

`disk version` コマンドと `fru list` コマンドの使用方法については、『Sun StorEdge T3 ディスクトレイ管理マニュアル』を参照してください。

システムレベルに関する問題

起動デバイスとしての使用

Sun StorEdge T3 ディスクトレイでは、Solaris オペレーティング環境が動作していて、SOC+ ホストバスアダプタ (HBA) で接続されているホストの「ウォーム」起動をサポートしています。ウォーム起動では、ディスクトレイボリュームからホストの起動を試みる前に、Sun StorEdge T3 ディスクトレイが完全に起動している必要があります。ウォーム起動は、Solaris 7 (リリース 11/99) 以降でサポートされています。Solaris 2.6 環境ではサポートされていません。

Sun StorEdge T3 ディスクトレイとホストを同時に起動する「コールド」起動はサポートされていません。

注 – 現時点では、Solaris 7 以降のソフトウェア環境で使用されている SOC+ HBA だけが、ウォーム起動をサポートしています。ifp (Qlogic 2100) HBA では、ウォーム起動は使用できません。

注 – 次の 4253419 を参照してください。Sun StorEdge T3 ディスクトレイがホストの入出力処理に完全に利用できるようになるまでに時間がかかることがあり、ディスクトレイを起動デバイスとして使用していると、特に問題となる場合があります。このような問題が発生したときは、購入先に調査を依頼してください。

4253419 : Sun StorEdge T3 ディスクトレイの起動に時間がかかる

Solaris ソフトウェア環境が動作しているホストシステムが Sun StorEdge T3 ディスクトレイよりも先に起動することがあります。このため、完全 AC 電力損失起動処理中にホスト構成内の使用可能なすべてのディスクトレイ記憶装置を検出できないことがあります。この問題が発生する可能性があるのは、ホストシステムに最小のメモリーしか搭載されていないか、メモリーに対する電源投入時自己診断が使用不可になっている場合です。

構成に電源を入れるときは、必ず Sun StorEdge T3 ディスクトレイに電源を投入してから、ホストサーバーに電源を投入してください。

それでも問題が発生する場合は、購入先に調査と回避策について問い合わせてください。

注 – システムの不揮発性ランダムアクセスメモリー (NVRAM) の設定を変更しないでください。エラーが発生して、システムが長時間停止することがあります。NVRAM を変更する前に、購入先に問い合わせてください。

4427874 : ファームウェアのアップグレード中に boot -i コマンドを実行すると、コマンドの処理が停止する

バージョン 1.17 以前のファームウェアが動作している Sun StorEdge T3 ディスクトレイで、boot -i コマンドを使用してコントローラファームウェアをバージョン 1.17b にアップグレードしようとする、まれに boot -i コマンドの処理が停止することがあります。

コマンドの処理が停止した場合、ディスクトレイをリセットして、boot -i コマンドを再実行してください。

4427400 : bootdelay パラメタを 60 秒に設定するとディスクトレイパートナーグループの起動で問題が発生する

Sun StorEdge T3 ディスクトレイに対する bootdelay パラメタは、デフォルトで 3 に設定されています。ディスクトレイシステムの起動の問題を回避するには、bootdelay パラメタを 3 以下に設定してください。

4435299 : ALL テストを実行する CyberCop ソフトウェアによって、コントローラがリセットされる

CyberCop ソフトウェアを使用し、ALL CyberCop テスト (危険および非危険) を実行すると、このテストによって、ディスクトレイコントローラのリセットが発生し、システムがクラッシュすることがあります。CyberCop は、サービス不能攻撃などのシステムに障害を発生させる可能性のある動作を「危険」テストと定義しています。



注意 – コントローラのリセットを回避するため、オンライン状態の Sun StorEdge T3 ディスクトレイに対し、CyberCop ソフトウェアを使用した ALL テスト (ALL 危険テストおよび ALL 非危険テストの両方) を実行しないでください。

4309324 : Ethernet スイッチをサポートするために、RARP のタイムアウト時間を延長する

Sun StorEdge T3 ディスクトレイをはじめて設置したときは、RARP サーバーに構成されている IP アドレスがディスクトレイに割り当てられます。最初に電源を入れたとき、ディスクトレイは RARP サーバーの応答を待ちます。ディスクトレイと RARP サーバーが Cisco Catalyst スイッチに接続されている場合、ディスクトレイを起動するよりもスイッチがインタフェースを起動するのに時間がかかります。そのため、ディスクトレイは RARP サーバーの応答を待っている間にタイムアウトしてしまいます。

この問題を回避するには、Cisco Catalyst ポートのスパニングツリーの設定を「portfast」に変更します。portfast を選択すると、スイッチは最初にポートを使用可能にし、その後スパニングツリーアルゴリズムを使用して完全性を検査します。デフォルトでは、スイッチはスパニングツリーの完全性を検査したあと、ポートを使用可能にします。ポートの設定の変更方法については、スイッチのマニュアルを参照してください。

4395542 : Solaris 2.6 環境が動作しているホストには、SUNWlux パッケージのインストールが必要

SUNWlux パッケージがホストにインストールされていない場合でも、Solaris 2.6 ソフトウェア環境の SOC パッチ (105375) は、正しくインストールできます。この場合、ホストからは Sun StorEdge T3 ディスクトレイに 1 つの LUN だけが見える構成になります。ほかに問題がない場合は、ホストに SUNWlux パッケージが正しくインストールされていることを確認してください。

4362567 : ディスクトレイでデフォルトのポートアドレスを使用する

Sun StorEdge T3 ディスクトレイのポートアドレスのデフォルト設定は、hard です。この設定を変更することは可能ですが、システムの予期しない動作を回避するために、デフォルト設定を使用してください。

4426672 : ホストの電源管理システムがサポートされていない

Sun StorEdge T3 ディスクトレイが、電源管理システムが使用可能なホストバスアダプタ (HBA) に接続されている場合、フェイルオーバーの問題が発生します。この問題を回避するには、HBA の電源管理システムを使用不可にします。

4292162 : ディスクトレイへのシリアルケーブルの常時接続は推奨しない



注意 – 電磁波放出に関する適合条件を満たすには、シリアルポートケーブルをディスクトレイから取り外す必要があります。シリアルケーブルの使用後は、ディスクトレイから取り外してください。

注 – シリアルケーブルは特別な保守作業の目的にだけ使用されます。認定を受けた保守作業員以外は使用しないでください。保守作業の終了後は、必ずシリアルケーブルを取り外してください。

Sun StorEdge T3 ディスクトレイのシリアルポートは、起動サイクル中にシステムを診断し、EPROM へのアクセスを可能にします。このため、シリアルケーブルをディスクトレイに接続したままにしておくと、セキュリティーが侵犯される危険があります。この問題を回避するため、ディスクトレイと外部ホストシステムを接続するシリアルケーブルを接続したままにしないでください。

EPROM に関する問題

注 – EPROM (erasable programmable read-only memory) レベルの設定を変更する場合は、ディスクトレイにシリアルケーブルを接続する必要があります。シリアルケーブルは、特別な現場保守作業の目的にだけ使用します。

4293509 : EPROM レベルのシステムの起動モードの設定がアプリケーションレベルで上書きされることがある

ディスクトレイの EPROM レベルの設定変更が、パートナーグループの起動後に失われることがあります。これは、特に起動モードを変更したときに重要です。たとえば、アプリケーションレベルでディスクトレイを tftpboot モードに設定し、そのあとで EPROM レベルでデフォルトの autoboot に戻した場合、autoboot 設定が tftpboot 設定で上書きされます。その結果、tftpboot サーバーがないと起動できなくなります。この問題を回避するには、再起動する前にアプリケーションレベルでディスクトレイの設定を確認し、起動モードを autoboot に設定します。

4300136 : パートナーグループ構成のディスクトレイが EPROM レベルで 5 分以上アイドル状態になると、パートナーグループのもう一方のコントローラによって使用不可にされる

パートナーグループの一方のコントローラが、EPROM レベルになっているもう一方のコントローラを使用不可にすることがあります。この問題が発生するのは、起動処理が中断されて、システムが 5 分以上の間 EPROM レベルにとどまっていたり、かつパートナーグループのコントローラにシリアルケーブルインタフェースが使用されている場合です。この場合、使用不可にされたコントローラはコンソールに連続して St を出力します。このコントローラに再びアクセスできるようにするには、パートナーグループに telnet 接続して `sys stat` コマンドを使用し、使用不可になっているコン

コントローラを特定します。そして、`enable u?` コマンドを使用して、使用不可にされているコントローラを再び使用可能にします。EPROM レベルになっていたコントローラがリセットされ、代替として起動します。

コマンド行のエラーメッセージ

エラーメッセージの種類

Sun StorEdge T3 ディスクトレイはコマンド行にさまざまなエラーメッセージを表示して、入力されたコマンドに誤りがあることや、不正な操作が行われたことを示します。コマンドが単独で入力されるか、単に引数がなかったり、形式に誤りがあるなどの構文上のエラーである場合は、正しいコマンドの形式が表示されます。これ以外のエラーの場合は、英大文字のエラー名、16 進数の数値コード、テキストメッセージからなるエラーメッセージが表示されます。

次の表は、Sun StorEdge T3 ディスクトレイが表示するエラーをまとめています。表-3 に、エラーの種類とそれらのエラーの種類に対応する数値コードの範囲を示します。

表-3 エラーメッセージの種類

エラーメッセージの種類	数値範囲	説明
論理ボリュームマネージャー (LVM) ドライバ エラーのコード	0x10001 ~ 0x1000A	ディスクドライブ関連のエラー
仮想ノード (VN) エラーのコード	0x200000 ~ 0x200025	vol およびその他のコマンド 行処理関連のエラー
ポートエラーのコード	0x300000 ~ 0x300006	port コマンド関連のエラー
sys エラーのコード	0x400000	単一エラー、不正な値を示す。
FRU エラーのコード	0x500001 ~ 0x500076	現場交換可能ユニット (FRU) 関連のエラー
pSOS オペレーティング システムのエラー	00000001 ~ C000FFFF	pSOS エラー (オペレーティングシステム)

RAID エラーとその他の一般的エラー

VN_ERROR は、よく表示される一般的なエラーメッセージです。次の表に、これらのエラー名とその値を示します。

表-4 ポリューム関連 (VN) のエラー

エラー名	数値	メッセージ
VN_BADUNIT	0x200000	bad unit number
VN_BADDRIVE	0x200001	bad drive number
VN_BADPART	0x200002	bad partition id
VN_VOLEXISTS	0x200003	volume already in use
VN_VOLNOTFOUND	0x200004	volume name not found
VN_PARTHASFS	0x200005	partition already has file system
VN_FACLOCKED	0x200006	facility locked by other command
VN_BADATTR	0x200007	unable to read attributes
VN_MOUNTED	0x200008	volume already mounted
VN_UNMOUNTED	0x200009	volume not mounted
VN_MNTINUSE	0x20000A	mount point in use
VN_NOMEMORY	0x20000B	could not allocate memory for operation
VN_ALREADYDSBL	0x20000C	there's already a disabled drive
VN_NODSBL	0x20000D	no drives are disabled
VN_ABORTED	0x20000E	operation aborted
VN_NOTSUP	0x20000F	operation not supported
VN_UNKVOL	0x200010	unknown volume
VN_RAIDERR	0x200015	RAID error
VN_NOPART	0x200016	partition has size 0
VN_PARTSMALL	0x200017	partition too small
VN_UNKVIF	0x200019	unknown interface
VN_UNKVIFTYP	0x20001A	unknown interface type
VN_BADVOLNAME	0x20001B	bad volume name
VN_BADVOLNAMELEN	0x20001C	bad volume name too long

表-4 ボリューム関連 (VN) のエラー (続き)

エラー名	数値	メッセージ
VN_CFGNOTSUPPORTED	0x20001D	unsupported volume configuration
VN_BADSTANDBYUNIT	0x20001E	standby unit number is wrong
VN_DEVINVALID	0x20001F	invalid drive specified
VN_LOCVOLBAD	0x200020	local volume bad
VN_PORTMAPRM	0x200021	volume still mapped to a port
VN_UNINITIALIZED	0x200022	volume is uninitialized
VN_PENDING	0x200023	operation is pending
VN_BADMODE	0x200024	cache mode must be set to auto for mirroring
VN_MIRRORON	0x200025	cannot change cache mode when mirroring is on

これらのうちのいくつかは、VN_MOUNTED、VN_UNMOUNTED、VN_MNTINUSE、VN_CFGNOTSUPPORTED、VN_DEVINVALID、VN_LOCVOLBAD、VN_UNINITIALIZED、VN_BADMODE、VN_MIRRORONなどに比べて頻繁に発生するエラーです。特にVN_RAIDERR (コード 0x200015) は、さまざまな状況やその状況への対処が原因で発生します。ディストレーは専用のプロトコルを使用してコマンドを実行します。このプロトコルでは、ユーザーに送信するときの一般的なエラーメッセージとして RAID エラーを使用します。このため、RAIDERR は多くのソフトウェアやハードウェアの状態が原因で発生します。容易に修正できるユーザー設定に関する問題もあれば、微妙な、ディストレーの内部ソフトウェアの機能に関連した問題もあります。RAID エラーの個々のインスタンスについては `syslog` で確認できます。ここでは、RAID エラーが発生する状況を簡単に紹介します。

ディストレーに組み込まれているプロトコルが RAID エラーを適用するカテゴリと、各カテゴリの具体例を次にまとめます。`syslog` を参照する際に役立つと思われるすべてのカテゴリコードを記載しています。すべてではありませんが、一般に RAID エラーの発生原因は次のように分類されます。

1. **Command Incomplete (0x1A)** : コマンドが正しく内部実行されませんでした。コマンドに対するソフトウェアからの応答情報が多すぎるか、少なすぎます。コマンドが単に一時停止されただけのこともあり、その場合は、再開されることがあります。
2. **Partial (conditional) Success (0x19)** : 次のケースがあります。
 - a. **Aborting a non-existent command** : ユーザーがコマンドを発行して、実行後にそのコマンドを終了しようとした。

- b. **Retry error** : コマンドが 1 回以上再試行されました。
 - c. **Target error** : ボリュームはオフラインか使用不可になっています。
3. **Invalid Response (part of the category above; 0x19)** : ユーザーコマンドに対するソフトウェアからの応答が不正です。これらのケースは、「コマンド未完了」のカテゴリより具体的です。
- a. **Invalid information type (parameter)** : ソフトウェアからの応答に不正な種類の情報が含まれています。
 - b. **Error in information returned** : コマンドに対する応答として返された情報に誤りがあります。これは、組み込みソフトウェアのエラーを意味します。
 - c. **Function failed** : コマンドが適切な情報を読み出せませんでした。
 - d. **Zero size** : コマンドがサイズ 0 のボリュームにアクセスしました。
4. **Command Aborted (0x18)** : コマンドの実行が中断されました。このエラーは、しばしばタイムアウトが原因で発生します。システム内の構成要素が凍結しているか、接続不良があると、コマンドの実行が中断されます。
5. **Command Exception (0x17)** : コマンドが実行できない場合があります。このエラータイプは、使用不可にされているか、使用できないか、不正なドライブまたはボリュームが指定された場合に発生します。たとえば、ホットスペア (予備) を使用してドライブのデータを再作成したあと、そのドライブを再びホットスペアとして参照することはできません。
- a. **Invalid name / address** : ユーザーまたは内部ソフトウェアが、不正な、または現在の構成と一致しないボリューム名またはディスクドライブ名を使用しています。
 - b. **Invalid command fields** : コマンドがサポートされていないか、または内部ソフトウェアによってサポートされていないコマンド opcode が使用されています。
 - c. **Missing fields** : ユーザーまたは内部ソフトウェアが、情報の不足しているコマンドを発行しました。
 - d. **Drive (module) errors** : 参照されているディスクドライブが接続されていないか、使用不可であるか、交換されているか、再構成中の可能性があります。
6. **Machine Exception (0x16)** : ハードウェアエラーが存在しているか、ほかのコマンドが実行中であるために、応答としてビジーが返されるケースです。

- a. **Drive fatal error** : 参照したドライブの内部エラーです。
 - b. **Autoreconstruct or disable attempted** : 再構成中または使用不可のドライブが指定されています。
 - c. **Queue full or busy response** : ほかのコマンドの処理中であるため、コマンドを実行できません。
 - d. **Unknown host** : 指定したホストアドレスが不正であるか、または指定したホストアドレスに到達できません。
 - e. **Single Drive errors** : コマンドが参照しているドライブが検出できなかったか、接続を開くことができなかった、またはドライブにシステム領域 (**sysarea**) を作成できませんでした。ドライブまたはドライブへの接続に問題があることを意味します。コマンドがディスクにアクセスし直そうとして失敗するケースもあります。
 - f. **Multiple disk failure** : 複数のドライブが関係するエラーが発生しました。
 - g. **Standby already in use** : このエラーは、「**Command Exception**」カテゴリのエラーに似ています。この場合、以前のコマンドの処理でドライブがビジーです。これは、コマンドが完了し、その結果としてドライブ構成が変更された場合に発生します。
 - h. **Volume (LUN) errors** : ボリュームにアクセスできないか、ボリュームの構成が壊れていて、無効 (**nonvalid**) になっている可能性があります。
7. **Intervention Required (0x14)** : ボリュームをマウントするかマウント解除したときに、予想に反してエラーが発生しました。物理接続が切断されていることがあり、その場合は、適切な **FRU** を交換することによって、接続を回復します。

RAIDERR は不正なコマンド引数によって発生したり、システムの問題によって発生したりします。ボリュームまたは個別ドライブの構成が原因になっている場合もあります。たとえば、追加しただけでまだマウントしていないボリュームを使用してディスクトレイを再構成しているときに、エラーが発生することがあります。また、ハードウェアまたは組み込みコンポーネントに関わる問題のこともあります。

一般に、**RAID** エラーはディスクトレイにマウントされているボリュームの状態を確認することによって診断できます。追加されているだけで、まだマウントされていないボリュームが原因でエラーが発生することがしばしばあります。また、以前のボリュームをまだ使用しているときに新しいバージョンのバイナリをダウンロードすると、競合が発生します。

次に、RAID エラーを調査するときのガイドラインを示します。

1. vol stat コマンドで現在のボリュームの状態を確認します。

- ボリュームがマウント解除されている場合は、T3 の reset コマンドを使用して再マウントし、システムをリセットします。
- ボリュームを再マウントできない場合は、再マウントする前にすべてのボリュームを削除して、システムをリセットし、ボリュームを追加し直します。

2. ディスクトレイへのホスト接続を確認します。

Solaris オペレーティング環境が動作するホストでは、format コマンドの結果が、ディスクトレイに存在するボリューム数に一致します。ボリューム数が一致しないときは、『Sun StorEdge T3 ディスクトレイ設置・操作・保守マニュアル』の第 5 章の障害追跡の情報を参照してください。具体的には、format コマンドによって列挙された T300 エントリが検出され、そのラベルが作成されます。これらのエントリ数はディスクトレイにマウントされているボリューム数に一致します。

3. ハードウェアの問題が原因で RAID エラーが発生している可能性がある場合は、fru list と fru stat コマンドを使用してコンポーネントの状態を確認します。

ケーブルとパートナーグループ装置間およびホストとディスクトレイ装置間の接続を調べると役立つことがあります。

syslog からエラーについてさらに詳しい情報を得ることができます。この場合、エラーの発生日時に注意してください。ただし、よく発生する一般的な事例は前述のようにして処理できます。

ポートエラー

次の表に、ポート関連のエラーメッセージを示します。

表-5 ポートエラー

エラー名	数値	メッセージ
PRT_UNKNOWNPORT	0x300000	bad port number
PRT_ALREADYMAPPED	0x300001	port is already mapped unmap first
PRT_INVALIDNAME	0x300002	volume name is not correct
PRT_VOLNOTFOUND	0x300003	volume name not found

表-5 ポートエラー (続き)

エラー名	数値	メッセージ
PRT_INVALID	0x300004	port number is incorrect
PRT_LUNNOTMAPPED	0x300005	this lun is not mapped
PRT_ACCESSINVALID	0x300006	need to specify the access mode

インターコネクトカードエラーとその他の FRU エラー

次の表に、FRU 関連の各種エラーを示します。これらのエラーは、電源および冷却装置の障害、ディスクが見つからない状態、インターコネクトカードのエラーを表します。

表-6 装置関連のエラー (インターコネクトカードとその他の FRU)

エラー名	数値	メッセージ
PS1_ONBATT	0x500021	Power Supply 1 On Battery
PS2_ONBATT	0x500022	Power Supply 2 On Battery
PS1_FANHIGH	0x500023	Power Supply 1 Fan High
PS2_FANHIGH	0x500024	Power Supply 2 Fan High
PS1_REFBATT	0x500025	Power Supply 1 Refresh Battery
PS2_REFBATT	0x500026	Power Supply 2 Refresh Battery
DK1_NOTEXIST	0x500031	Disk 1 Not Present
DK2_NOTEXIST	0x500032	Disk 2 Not Present
DK3_NOTEXIST	0x500033	Disk 3 Not Present
DK4_NOTEXIST	0x500034	Disk 4 Not Present
DK5_NOTEXIST	0x500035	Disk 5 Not Present
DK6_NOTEXIST	0x500036	Disk 6 Not Present
DK7_NOTEXIST	0x500037	Disk 7 Not Present
DK8_NOTEXIST	0x500038	Disk 8 Not Present
DK9_NOTEXIST	0x500039	Disk 9 Not Present
DK_NONE	0x50003A	No Disk Present

表-6 装置関連のエラー (インターコネクトカードとその他の FRU) (続き)

エラー名	数値	メッセージ
DK1_BYPASSED	0x500041	Disk 1 Bypassed
DK2_BYPASSED	0x500042	Disk 2 Bypassed
DK3_BYPASSED	0x500043	Disk 3 Bypassed
DK4_BYPASSED	0x500044	Disk 4 Bypassed
DK5_BYPASSED	0x500045	Disk 5 Bypassed
DK6_BYPASSED	0x500046	Disk 6 Bypassed
DK7_BYPASSED	0x500047	Disk 7 Bypassed
DK8_BYPASSED	0x500048	Disk 8 Bypassed
DK9_BYPASSED	0x500049	Disk 9 Bypassed
DK1_NOTREADY	0x500051	Disk 1 Not Ready
DK2_NOTREADY	0x500052	Disk 2 Not Ready
DK3_NOTREADY	0x500053	Disk 3 Not Ready
DK4_NOTREADY	0x500054	Disk 4 Not Ready
DK5_NOTREADY	0x500055	Disk 5 Not Ready
DK6_NOTREADY	0x500056	Disk 6 Not Ready
DK7_NOTREADY	0x500057	Disk 7 Not Ready
DK8_NOTREADY	0x500058	Disk 8 Not Ready
DK9_NOTREADY	0x500059	Disk 9 Not Ready
CT_NOTEXIST	0x500061	Controller Not Present
CT_QLOGNRDY	0x500062	Qlogic Chip Not Ready
CT_SEL_ID	0x500063	Select ID Changed
LP_VSC_ERR	0x500064	VSC7120 Loop Failed
LC1_OFFLINE	0x500065	Loop Card 1 Offline
LC2_OFFLINE	0x500066	Loop Card 2 Offline
LP_CABLE1	0x500067	Cable 1 Not Present
LP_CABLE2	0x500068	Cable 2 Not Present
LC1_NSTART	0x500069	Loop Card 1 Failed to Start
LC2_NSTART	0x50006A	Loop Card 2 Failed to Start
CT_NOALTLP	0x50006B	No Alternate Loop

表-6 装置関連のエラー (インターコネクトカードとその他の FRU) (続き)

エラー名	数値	メッセージ
LP_SWITCH1	0x500071	Switch to Loop 1
LP_SWITCH2	0x500072	Switch to Loop 2
LP_MUX_ISO	0x500073	Loop Mux Changed to Isolated
LP_MUX_TOP	0x500074	Loop Mux Changed to Top
LP_MUX_MID	0x500075	Loop Mux Changed to Middle
LP_MUX_BOT	0x500076	Loop Mux Changed to Bottom

その他のエラー

論理ボリュームマネージャー (LVM) エラー (範囲 0x10001 ~ 0x1000A) やオペレーティングシステムエラー (範囲 00000001 ~ C000FFFF) などの、その他のタイプのエラーはめったに発生しません。tftp error (数値 10060001 ~ 10060005) は例外で、新しいバイナリをダウンロードするときに発生することがあります。通常、tftp errors は次のいずれかの場合に発生します。

- ダウンロードするファイルのアクセス権に厳しい制限がある。一般に、バイナリはすべてのユーザーに対して読み取りおよび実行可能である必要があります。
- ダウンロードするバイナリファイルの検査合計に誤りがある
- ネットワーク上でディスクトレイ装置が認識されない。この場合、システム管理者はディスクトレイの IP アドレスがネットワークのデータベースに登録されているかどうかを確認してください。

次の表に、pSOS エラーを示します。

表-7 組み込みオペレーティングシステムエラーとドライバエラー

エラータイプ	数値
pSOS+	0000'0001 0000'0FFF
(予約)	0000'1000 0000'1FFF
組み込みファイルシステム	0000'2000 0000'2FFF
pREPC+	0000'3000 0000'3FFF
(予約)	0000'4000 0000'4FFF
pNA+, pRPC+, pX11+	0000'5000 0000'5FFF

表-7 組み込みオペレーティングシステムエラーとドライバエラー (続き)

エラータイプ	数値
(予約)	0000'6000 0000'FFFF
装置ドライバのエラー	0001'0000 0FFF'FFFF
(予約)	1000'0000 1000'FFFF
シリアルドライバ	1001'0000 1001'FFFF
チックタイマードライバ	1002'0000 1002'FFFF
(予約)	1003'0000 1003'FFFF
RAM ディスクドライバ	1004'0000 1004'FFFF
(予約)	1005'0000 1005'FFFF
TFTP ドライバ	1006'0000 1006'FFFF
SLIP ドライバ	1007'0000 1007'FFFF
MMUlib	1008'0000 1008'FFFF
(予約)	1009'0000 104F'FFFF
SCSI ドライバ	1050'0000 105F'FFFF
(予約)	1060'0000 BFFF'FFFF
共用メモリー	C000'0000 C000'FFFF
(予約)	C001'0000 FFFF'FFFF